



ベガルタ仙台レディース 後援会通信

2018年 7月7日発行

vol.4

編集・発行/
ベガルタ仙台レディース後援会

(通算 vol.31)

**6月23日にユアテックスタジアム仙台で行なわれた
リーグカップ1次リーグB組第7節INAC神戸戦。
後援会ブースでは、2つの大きなイベントを行いました。**

大阪府北部地震義援金集まる

当日の河北新報朝刊でも呼びかけた募金ですが、後援会ブース前に、小野瞳、宮本華乃、佐々木美和の3選手が募金箱を持って立つと、来場した方々が次々と募金をしてくださいました。3選手の笑顔の力が大きかったのはもちろんですが、東日本大震災の被災地である仙台的サポーターという気持ちが強く、大阪の被災者の皆さんのことが人ごとではない、との思いがあるのでしょうか。あっという間に、募金箱はお礼を含む募金でいっぱいになりました。

大会本部にそのままお渡しし、計算していただいた結果、100,071円という報告をいただきました。入場者数が1,168名だったことからみても、大変な金額であることが分かります。本当にありがとうございました。

この浄財は、来週6月30日(土)に奈良で行なわれる第8節の「セレッソ大阪堺レディース戦」で、直接お渡しし、仙台的サポーターの気持ちを伝えていただくことになりました。



「ベガルタ七夕」短冊募集を始めました



市民後援会とのコラボ企画、「ベガルタ七夕」の短冊募集を始めました。毎年この時期に、トップとレディース両方の試合の入場者に短冊を書いていただいています。集まった短冊は、市民後援会の皆様によって「ベガルタ七夕」の吹き流しに飾られ、8月6～8日の仙台七夕の期間中、クリロード商店街、常陽銀行仙台支店前付近に設置します。

七夕気分を盛り上げる笹竹で飾り付けたブースには、後援会メンバーの声掛けに誘われてお子さんを中心に多数来場し、思い思いの願いを綴っていました。今日の短冊第1号は宮本華乃選手に書いていただきました！

今年はあと2回、7月7日(土)の第9節「AC長野パルセイロ・レディース戦」(ユアテックスタジアム仙台)と、7月14日(土)の第10節「ノジマテラス神奈川相模原戦」(ひとめぼれスタジアム宮城)でも募集します。

あなたの願い、チームへの願いを、1枚の短冊に託してみませんか？



DF ^{なら} 奈良 ^{みさき} 美沙季 選手(26歳)【背番号6】

FW ^{おきの} 沖野 くれあ 選手(18歳)【背番号18】

●迷ったときに、背中を押してくれた母の一言●

小学校入学前後から継続してサッカーに親しんできた2人ではあるけれど、サッカーを生活の中心におくと決めることに迷いはなかったのだろうか？

北海道から常磐木学園高等学校に入学した沖野くれあ選手は、小学5年生くらいの時に、札幌で常盤木とノルディア北海道の試合(2010年のチャレンジリーグ)を見てから、自分もずっと常盤木に入りたいと思っていたという。思いを果たし、60人もいた部員の中で1年生から試合出場という飛び抜けた力量が、小学生の頃から培われてきたことが想像できる。

奈良美沙季選手もサッカー一筋だったかと思いきや、高校卒業時、進路に迷ったそうだ。しかも、大学に進学し法律の勉強をしようか、サッカーの道に進もうか、という選択肢だったというから驚きだ。その時アドバイスしてくれたのがお母さん、「自分が1番好きな道に進みなさい」と。今、奈良選手がここにいるのは、お母さんのお陰なのですね。

●サッカーと仕事、そしてそれぞれのオフタイム●

同じ日進工具(株)で働く2人、「サッカーと仕事の両立は難しいのでは？」という質問に、マイナビ仙台Lの選手はなでしこリーグの中でも恵まれた仕事環境にあると思う、と笑顔で答えてくれた。会社では、様々な部署をローテーションで経験させてくれるのだとか。社員一人一人と触れ合っ、応援して貰えるようなサッカー中心の職場環境づくりに配慮してくれていると言う。2人の屈託のない笑顔が、会社をあげての応援に対する感謝と読み取れた。

趣味は山ランと言うのは奈良選手。自然の中を走ることが好き、アップダウンのあるコースでのランニングが楽しいのだそうだ。前所属のちふれASエルファン埼玉の周辺は「山ランコースだらけ」だったそうだが、仙台に来てからは適当な山が見つけれず1度も走っていないと言う。どなたか教えてください、と募集中大そう。

一方、18歳の若さ溢れる沖野選手のオフの過ごし方は「ゆっくり過ごす。寝ている時が超幸せ」との返事。スピード



ひたむきにサッカーに取り組む選手の皆さんの、職場での姿やオフの過ごし方など、素顔の一端を紹介する「ふだん着の織姫たち」シリーズ。今年の新入団選手8名を、2名ずつ4回に分けてご紹介していきます。

と体力が持ち味という沖野選手らしからぬ返事だが、オン・オフを上手に切り替えているのかな。

●好きな選手は●

奈良選手が目標にしているのは、ちふれASエルファン埼玉の伊藤香菜子選手だ。昨年まで一緒にプレーしていた先輩で、間近で見ただけに、同じレフティーで左足キックの上手さ、ボランチとしての舵取り、チームを引っ張っていく力などに憧れてきた。サッカー選手として続けていくための大きな出会いだったと言う。



沖野選手の憧れは、アメリカのアレックス・モーガン選手。言わずと知れた世界女子サッカー界の大物だが、試合を実際に間近で観戦し、プレーを見てそのスピードに感動したのだそうだ。常磐木学園入学の経緯と言い、モーガン選手への憧れと言い、実際に体験することが、その後の行動に与える影響がよく分かるエピソードだ。

●自分の特徴を生かしたサッカー選手に●

憧れの選手はいても、そのようになりたいとは別、誰かというのではなく、『奈良美沙季』という選手になりたいのだという。アピールポイントは左足のパス、レフティーの特徴を生かしたプレーを見て欲しい。

沖野選手はスピードと体格の良さを生かし、どこからでもシュートを試みるゴールへの貪欲な姿を見て欲しいと言う。AC長野パルセイロ・レディース戦で決めたロングシュートのように。もっともあのシュートは、「狙ったけど普段は余り狙わない距離、VTRを見て自分でもびっくりした」とのことだ。

「(奈良なので)シカ(鹿)ちゃん、と呼んで応援してください」、「ピンクの太いヘアバンドで目立つようになっている。声援を力にしたい」と言う2人。埼玉ですべて育ってきた奈良選手の「仙台は温かい人が多い。東日本大震災からの復興にプレーで少しでも力になりたい」との言葉が嬉しい。



自分らしい、唯一無二の選手を目指したい

文：K.Naito

イラスト：K.Honma

(6月14日 取材)